

2003年1・2月合併号

Enfanter ● No.285

あんふぁんて

Enfanterとはフランス語で

①子を産む ②(計画などを)考え出す ③(作品などを)創り出す、の意

詩・井上
イラスト・高橋

近所の公園で 裸足で我娘を遊ばせていたら
「うちの子がまねして困るから
裸足は止めさせて」と
見知らぬ親から 言われた

『どーして 止めさせなきゃいけないの』と
思ったけれど
引き下がるしかできない私

私さえ我慢すれば これ以上の摩擦は避けられる
下手に何か言ったら どこで何をされるかわからない
こんな事は日常茶飯事の 子育ての日々

いつしか娘のように 鬱積が溜まる
お酒なら寝かせるほど 美味しくなるけれど
子育ての鬱積は 過剰発酵になりがち

いつしか蓋をふつとばし どこかに当り散らす
後に残るのは さらついた自己嫌悪
身の置き場を失い 迷宮さまよう迷い人のよう

けれど どこかに出口はあるはず
こんがらがった 糸を解くように
ゆっくり ゆっくり だけど



特集

『母親同士の子どもを挟んだ人間関係の難しさ』

P2

・平和な世界を創るために
・イベント参加報告
・情報コーナー

P7

P10

P11

・あんふぁんてからあんふぁんてへ

・あんふぁんてって何?

・事務局から

P8

P11

P12

特集

『母親同士の子どもを挟んだ
人間関係の難しさ』

— みんな密かに悩んでる —



ご存じでしょうか？今、育児の悩みは大きく分けて、一・子供の育成、発達上のこと。二・母親自身のこと（マタニティブルー・自己実現など）。そして三つ目に「親同士の関係」のことが多く出てくるそうです。しかし、一と二についての相談窓口はありますが、親同士の関係については夫や他人に相談したとしても「くだらない」「気にするな」などと取り合われず、却って気持ちに重くのしかかってくることはないでしょうか？

特に、幼稚園入園前後の幼児を持つ母親層は、生活範囲が限られているため、固定化された地域の人間関係でつまづいた時、行き場をなくして、つらい思いをすることも少なくありません。みんな、口に出しては言わないけれども、密かに悩んでいます。

多くの母親が共通して抱えている「親同士の関係」の悩みについて、知らせ合い、語り合って、それぞれの生活にあった対処方法を考えてゆく一歩にしたいと思います。

(角谷 関場)



◆学生時代も社会人時代もさしておしゃべりであるとは思っていませんでした。今は「とにかく誰かとしゃべりたいの！」と心から叫んでいます。「席」というより「一緒に座ってくれる人（しゃべってくれる人）」という感じでしょうか。だから公園や児童館や色々な集まりに顔を出し、その誰かを求め続けてきました。少し例えはおかしいですが、結婚したくて（恋をしたくて）お見合いパーティに出席し、好みの異性を物色し、「いいなあ」と思う人がいたら、どうやってアプローチしようか、その人にとって私は魅力的か、電話番号はどうやって聞こうか、話題はどんなものがいいか等々あれこれ悩む。まさに恋愛の始まりのような、そんなことばかり考えてしまうのです。切に友達を求めているという気持ちの裏で、「一日中一緒に過ごせる」そこまでの関係をはたして望んでいるかといえどそれは「NO」なのです。学生時代や社会人時代の友人は、ある程度プライベートは守られていたけれど、今からつきあう友達は、夫のこと、夫の職業のこと、収入のこと、どんな家に住んでいるのか、どんなものを食べているのかなど、「生活」が丸見えになってしまふ。だから当たり障りのない程度の世間話程度の関係が望ましいとも思うのです。でも、毎日「大人としゃべりたい」とひたすら考えてしまうのも事実。気持ちはくるくる堂々巡りです。

一緒にしゃべりできる友達がほしい！

おつき合いが始まらない

◆子どもが一才ぐらいまでは、他のママとの交流を今ほど求めてはいなかった。子どもの成長がめまぐるしく交流どころではなかった。少し大きくなり、子どもと毎日外で遊び出すと、親子のみで過ごすだけでは物足りない気がして、子どもにも私にも親しい友達が必要と感じ、交流上手でない自分に気付いた。さびしいと感じ始めた。私の場合は母親同士のつき合いで悩むというより、交流が発生しないことを悩んでいる状態。長女の幼稚園の送迎の時、次女との公園で、どうやって交流の糸口を見つけたらいいのかわからず悩んでしまふ。子どもがいるからこそ、交流しない、出来ない状態がとて居心地悪いのです。

子どもを産む前は一人でいても自分の席がありました。仕事での席、舞台での席。でも今は、自分の座る席がないのです。私は席がほしいのかもしれない。その席を確保する為に、講座に参加したり、自主グループに参加したり、あんふぁんてに参加したり。今はまだ、どっしり座る席はキープ出来ていないけど、ちょこっと座る席はキープしつつあるのかナァなんて思っています。早く人付き合いのノウハウを身に付けたいです。

(東京)

◆幸いなことに私は母親同士の関係を深く悩んだことはありません。もともと他のお母さんとの関係に多くを求めていないから失望も

かもお互いの家を行き来して、気楽にお茶に呼んだり呼ばれたり仲良しがほしい↓でもどこまでプライベートに踏み込んでいいの？どこまでプライベートな話題っていいの？↓お互いの腹のさぐり合いをするくらいなら、挨拶程度の中でいいわ↓ああ今日も大人としゃべらなかつた！誰かとしゃべりたい！（夫ではダメ。女性と）↓そういう人を求めて色々な場に行ってみる↓あの人は気が合うかしら？でもさつき目があつたのに無視された気が…。あるいは話しかけようと思ったけどできなかった。↓一日落ち込み子どもにも当たってしまう↓友達なんて、作ろうと思っただけのものじゃないんだし、気楽に待とうと半分開き直り、半分希望を持つ↓公園で仲良さそうにしているグループを見てしまい、どうして私だけ友達ができないの？↓やっぱり一緒にしゃべりできる友達がほしい。とまあこんな感じの自問自答が一日に何度も繰り返されるのです。

(東京)



See me

しないのかもしれませんが。学生時代や仕事上で築いてきた人間関係、信頼関係は十年以上のもの。ここ数年、しかも子どもを追いかけて、育ってきた環境も全く違う方たちと、どれほどの人間関係が築けるのかなあ。子どもも母親も仲良しというのが一致すればラッキーですが、なかなかそうはいきません。お会いしてすぐ意気投合する方もいらっしゃいます。でも話せて、遠出なんか出来る、その日の気分が携帯なんかで呼び出してお茶する、なんて学生時代からの友人みたいなママ友達いたらいいなと思います。が実際無理でしょうね。この子のためにいまにいいのかわか、他のママとべったり一日一緒にしゃべっている姿勢を見せるのが果たしていいことなのか、何をどう時間配分すればストレスが最小限になるのか考えると、そういうおつき合いは私には出来ません。ご近所の方とは挨拶はする、公園であつたときは立ち話するくらいは関係が負担にならないみたい。でも来年幼稚園に入るの、他の方々とおつき合いも変わってくるのでしょうか。

(H・O)



おつき合いは始まったけど！

◆三才になる息子は公園・児童館などで一日に何回もおもちゃの取り合いをし、押しついたり叩いたりになる。たいていのお母さんは「お互いさま」という気持ちで見守っていて、その場の雰囲気も悪くならないが、中にはこちらが謝っても、無視したり、あからさまにイヤな顔をする人もいて、そういう時は気持ちが落ちこむ。子どもはすぐに違う方に気がついて全く私のことなど気にせず楽しんでる姿を見ると、さらに暗くなる。最近ではお母さんの様子を見て、大丈夫そうなの近くでし遊びせなくなりました。(A・Y)

◆去年秋、育児の大変さのあまり精神的に具合が悪くなってしまいました。人間関係もあつたのかもしれない。引越してきて三年半がたちます。私の性格では、近所の人とおしゃべりしたり、子ども同士遊ばせたりするのが好きですが、ここに来て始めは家にどんな人呼んだりしていましたが、ほとんどの人が人間関係のわずらわしさから、子どもと二人で家にいる方がよいと思っているみたいです。夫の職業柄お金のこととか色々言われることも多く、一言一言相手が嫌味を言っているかのような言葉や話題を選んで話すのにも疲れて、以前の環境があまりにも良かったので、環境の違いをすごく感じます。今は、二人の話を人だけ行ったり来たりという状態です。

(北海道)

◆近所の活発な男の子が家に遊びに来て、最後には、娘と外へ出てしまっています。二歳半の下の子も一緒に外へ付いて行ってしまい、危険な状態に。お預かりしている子どもさん、何かあったら、という心配もあり、これは待ったなし！だと思って。その子のお母さんに、

◆かなり前のことになりました。同じ町内のお母さんと子ども（当時一・二才）を通じておつき合っていました。ところがある時、ちょっとしたことだったのか、よく覚えていませんが、彼女が一方的に怒りだし、気まずい関係になりました。私には心あたりがなく、本当に悩みました。このまま気まずい関係を続けるか？心あたりはなくても、私が謝って仲なおりをするか？私は悩んだ末、後者をを選びました。なぜなら、今までの彼女の中に私にとって得るものがあったこと、これからこの地域に住み続けていくとき、顔を合わせてもグイッと横を向く関係が続けられるかと考えたとき、とてもそれは「つらい」と考えたからです。私が我慢したおかげで、仲直りでき、その後はいい関係が続けられました。もしこれが離れた地域の人だったら、そのままにしたかもしれません。また、つき合う価値を感じない人だった場合も、謝らなかつたかもしれません。あのときの選択は一生のおもいでに残るほど、印象深いものでしたが、我慢してよかったと思っています。（千葉）

トラブルへの対処

話すことにしました。「誤解しないで欲しいんだけど、私は口べただから、率直に話すね。どうしたらいいのか相談させてほしいの。」そして、状況をそのままに話しました。相手のお母さんは、すぐにはわからなかったみたい。でも夜になってから、「これまでは、きつと楽しく遊んでいたんだらう。くらいにしか考えていなかったんだらう。そんな状況だったと初めてわかった」というお電話を頂けました。（A・S）

◆私の母親同士のおつき合いは、グループづくし合いで始まりました。でも、その中で、自分以外の人たちが、グループで会う以外で仲良くなり、おつき合いをしていることを知りました。「自分だけが、そう思い始めたら、だんだんおつき合いが嫌になり、一時は全く離れたことがありました。」

ところが、おもしろいことに自分の生活、（子育て）状況が自分なりに安定したら、今度は楽につき合えるようになったのです。「この人たちは、このグループづくし合以上のものを求めなければいいのだ」そのような考えに落ち着いたところ、うまくつき合え始めたのです。この体験は、苦い思いをしたと同時に、おつき合いの一つのお手本となったと思っています。（N・N）

◆母親同士の友人関係と、子ども同士の友人関係は、決して一致しないということを大人の母親自身がきちんと認識することが大事だと思ふ。それにはまず母親自身が、基本としている育児方針をいつも確認していること、



（東京）

◆ご近所に、お互いの家を行き来する仲だった方達がいました。ある日、一方に「仕事を休むようになったから、預かる方はナシにして預けるだけにさせて欲しい」というメールが届いたそうです。もった方方は、「ちょっとウチは保育園じゃないんだから！でも、ダメとも言えない」と、返事も出さずにいたら、それっきり、挨拶をするだけの仲になったそうです。口べたな私としては、「返事を送さない」ということも、大人だと意志を伝えることになるんだなあ、と思っていました。（A・S）

◆以前住んでいたところ（地方都市）の仲良し関係がすっかり崩壊してしまい、道であつてもあいさつもしない人も出てきたと、友人から知らせがありました。幼稚園の役員決めでちょっとめめたらしいのですが、特に「大きな事件」があったわけでもないのに、グチャグチャしているとのこと。とても残念です。でも、その友人の話を聞いてみると、なるほどなあ、と思えるところもあり、ちょっとしたボタンのかけ違いが怖いなあと感じました。私もその場にいたら、カッカしちゃうだろう。冷静になれるだろうか。やっぱり子ども同士の関係もあるし、知らんぷりはできないでしょう。毎日のように顔を合わせる仲間と、レックな関係になるのは、想像するに、すごくストレスになると思います。仕事していても、していないくても、どこへ行っても（都会だろうが田舎だろうが）人間関係って難しいと実感します。いつ起きてもおかしくない音羽事件、とゾゾッとします。（N・I）



抜け出そう

◆今小四の息子は学区内のスポーツ少年団で野球部に入っている。入学してから一年半、親同士の関係での悩みはつきない。

私は息子が入学しようが、自分は無関係だと思っていた。ところが、入学して一ヶ月後「お当番」なるものが回ってきた。毎月一回練習や試合時のお茶(子どもへの)や弁当の手配、ケガの時の手当てなど当番の母親が半日、一日つき合わないといけない。まったく見知らぬ親と接するのが苦痛だったし、すでにできあがっている仲良しの輪に入らず、三ヶ月ほどおちこんだ。やっとなじんだと思ったら、今度はプライベートな時間のおつき合い。試合後の打ち上げなどをはじめなにかと時間をとられ、参加しないと「病気になる」ときかれ「まあ、い」とごまかす自分:子どもの学年が違っても、どうしても他の学年の母親とは距離がでる。

ところが四年になり、試合に出られるようになると実はもっと大変なことが待っていた。子どものポジション争いに付随する親同士の陰口の言い合い。「どうしてあの子がレギュラーなの?」「どうしてうちの子は途中でベンチに下げられるの?」試合後のコソコソ話に男共も加わることがある。で、チが悪い。言いたければ堂々と監督にかけあえばいい。練習後の子ども達の行動にも母として気がぬけない。というのも上級下級関係なく、ワイワイ遊んでいるのだが、あるとき、五年の親が六年の親の家へ「うちの子をよくもいじ

めたわね!」とどなりこんでいったそう。子ども同士の悪ふざけがすぎたのか、五年の子は親に「上級生にいじめられた」と言いあげ、真に受けた母親が相手の話も聞かずにとどなりこんだという。結局その件がもとで五年と六年の親の仲は最悪になり、四年の私達が間に挟まれて大変だった。幼稚園をすぎ、小学校で入学するまでは、ややこしい親の関わりから離れられたのに、ここに来て幼稚園の親関係以上に大変な思いをすることになるうとは、いくつになっても親は我が子かわいと思うのはわかるけど、早くあと二年たつて、部をやめる日が来るのがまちどおしい。(H・I)

◆私達は、全員と仲良くしなければいけない幻想に縛られすぎているのではないだろうか。保育園で挨拶を返さない親ってむかつくのでシカトする。でもシカトし続けるのも疲れる。場面変わって、学校の保護者会などの席で誰かと会話が弾んでいる私を、演出したいだけの時もある。これは私が仲良しの友人をちゃんと確保しているというのを証明したいため。その場が楽しく、全体から浮かなければOKである。そもそも私は特定の仲良しグループに所属するのは、苦手だ。明確な目的のない集団は、暴走し始めた時、歯止めが効かないから怖い。気が進まないのに変な集団に入るくらいなら、一人で時間を過ごした方がよほど良い。私は今、子ども同士のつき合いということを考えずに生活できるからなのだろう。(埼玉)

平和な世界を創るために



■私たちが思っていること・できること②

(十月に実施した平和についてのアンケート回答より)

*正直平和な世界を創ることなんて出来るのだろうかと思う。でも努力することは必要だと思う。(茨城)

*個人の出来ることと言えば、「知ろう」とする気持ちを維持することかと思う。平和な世界を創るためにみんな生まれて、生きているはずだと思いたい。中東、アメリカ、ヨーロッパ、人種、宗教・どのニュースを見ても自分の知識不足を痛感する。でも分かるうという気持ちを持ってほしい、まずは興味のあるところを少しでも掘り下げてみたい。(東京)

*最終的には人材(人間)の教育。大まかに言えば南北問題の解決。個人のレベルで言えば家庭の安定・平和。今私に出来ることは、目の前にいる自分の子どもを平和を尊ぶ人間に育て上げること、自分自身の様々な学習。母親が無知で自分でモノを考えられないような人間ではないかと思う。(東京)

*平和憲法を守ること。アメリカに追随しない日本であってほしい。みんなが幸せな平和な世界を創らなくて、何を目標に生きているのですか?(金儲けが目標なら、その金は何に使うの?)(東京)

*平和平和という言葉にウソ寒さ・偽善を感じる。私(日本人)にはどうしても理解できない民族間・宗教間の対立、北朝鮮の独裁国家に平和平和といった通じっこないと思っている。だからどうしてこうという事は分からないが、今日日本人という事がなくなっちゃっているの、日本人になろうと思っている。(東京)

*小さな子どもの時から戦争の不当性、平和な世界の必要性を教えるしかない気がします。(先の長い話ですが)私の親やその上の世代は、教育されて洗脳されて戦争に突入していった訳です。今アメリカと戦っている国の大人も子どもも小さい頃からずっと戦いの中で生活しているの、平和を願いつつも戦わぬ世界を知らないし、戦わぬ生活へ変える方法も知らないのでは? 平和な世界への道のりは厳しいようです。(東京)

*やれることと言ったら、NGOを中心とした対等な対話ですね。まず相手に対する理解からすべてが始まりますから。国家間だと経済力がかかってくるので上下関係が出来てよくないし。私個人としては日本にきている外国の方と接する機会もあるので、本音でいようとう心がけております。(東京)

まとめとまらない!!

人間関係に「万人に有効なハウ・ツー」はないようです。いえむしろ、そうしたものをおしつけられることにより、「それは出来ない自分」に苛立ち悩みが深まってしまったり、「私の気持ちなんて誰もわかってくれない」と、却って心を閉ざす結果になったりするよう。むしろ話し合い・聞き合う場が開放されていることで、自分の生活にあった方法を探っていくのではないのでしょうか?

今回は、会報上にその場を設けてみました。なお、「あんふぁんて」は基本的に表名で発言することになっていますが、話をしやすくするため、匿名希望に関してはイニシャルで統一させていただきます。また、直接出会える場も作りました。

2月4日(火)東京・池袋「エポック10」3月1日(土)東京・武蔵野市(予定)にて「母親同士のコミュニケーションワークショップ」を開催します。詳細はP12情報コーナー参照のこと。(特集スタッフ・角谷 湯子・中廣 蘭)



■パレスチナの現状

府中市

今は十二月中旬ですが、アメリカのイラク攻撃が始まりそうな気配。この会報を発送する頃戦争が始まっていることを祈ります。確か湾岸戦争の時も寒い日で、ちょうど授業参観の日で攻撃が始まり、小学校の教室の後ろでお母さんたちとストローを囲みながら、「いやねえ、本当に」なんて言っていたのを思い出します。

ところで、十二月十二日に「パレスチナ・ナブルスからの証言」という集会に行きました。話をしてくれたのは、イスラエル軍に占領されているパレスチナ西岸のナブルスという街からやってきた若者と、現地でイスラエル軍とパレスチナ市民との間に人間の盾となつて立ちふさがるといふ非暴力の活動(ISM)をした日本人の女の子。

若者は、子ども達が学校に行こうとすると戦車が猛スピードでやってきて銃を撃ちまくって威嚇したり、道路がいたるところで封鎖されていたりする街の様子を熱心に話してくれました。四ヶ月間外出禁止令が出されていて、仕事にも買い物にも自由に行けず、救急車も制限される生活がとてつもないそうです。彼はごく普通の若者ですが、軍の仕打ちにいたたまれず、仲間と戦車の前に立ちあがった場面が何度もあったそうです。また日本の女の子は、「外国人は撃たれる確率が低い」というだけの命の補償のない所で、軍の発砲で足を負傷しながら活動していたそうです。世界の各地で様々な形の軍事行動が行なわれていること、改めて気付かされました。

十月号をふと見たら、グループアンケートが入っていて、思春期の子をもつ会員の方ってどれくらいいるのかなと思いました。気になりながらそのままになっていました。日野の、さんのような四十才前後のブルーなのか、流行りの若年性更年期なのか、気分の揺らぎというか落ち込み（今までのと

思春期の子を持つあなたと更年期のあなたへ

小平市

を作っているというではありませんか！（でもその前に、やっぱり更年期があるのかな、ときどき）
生きがいについても考えました。悲しいかな、私には「この道一筋」みたいなものがあるません。なので、「これがなかったら、生きていく甲斐がない」ものは何だろうという考え方をしてみました。私には、やはり月並みですが、子どもたちのいない人生なんてものは考えられません。子どもは自分とは別人格と心得ているつもりではあります。どんな大人になるのか、どんな会話ができるようになるのか、孫は抱かせてもらえるのか、とてもとても楽しみです。それから、読書。大好きな本が読めない生活なんてなんと味気ないことか。「生きがい！」なんて大げさに考えず、こんな身の回りのことを探してみるだけではないでしょうか？
平凡で、世間様に誉められるでもない、でも自分の人生。大切にコツコツと生きていきたいですね。

来年で四十歳！と
じたばたしていたら・・・
豊島区
年の瀬のあわただしさを感じたころ、ふと来年でいくつになるのだろうと歳を数えてみたら「エー、誕生日がきたら四十歳じゃないー」と思わず声を上げてしまった。いつしか、そんな年代になろうとしている今日この頃なのでした。
昔中学生の頃、四十代の親をどんな感じで見えていたかと思いをめぐらせてみると、なん

※十一月号情報コーナーに載っている「自分の歳を意識するのはどんな時？」と、今回の小田島さん提案の「更年期前後の自分と思春期の子どもの関係（仮題）」について、原稿や特集メンバーを募集しています。聞きたいこと・言いたいことのある人、事務局まで連絡ください。



だかスゴク大人に見えていた気がする。
（何が大人なのかはわかっていないが）
そんなふうに見えていた大人の歳にいつの間にか私もなっていたのです。そう思ったなら「エーどんな風なら、そういう大人になつていけるといえるのかしら（子ども達から大人と見られるにふさわしい四十代の大人像ってどんなの？私はそうなのかなのかしら？）」と一人でじたばたしていました。
「もう、四十歳だって！エー、どーしよう、どーしよう。四十歳だよ」と一人騒いでいたそのとき、中二の娘に「いくつになつたからどうということより、もう何年生きてきたんだと思えばいいでしょう」と味噌汁をすすりながら、軽く言われてしまいました。でも、なんだかすくなく納得して「ウー、中学生あなどれない」と思った、朝ごはんの時のほんのひとコマでした。

あんふぁんてから

あんふぁんてへ



十月号でセックスを話題にしていたさんへ

こんにちは。昨年の十月号で「長年一緒に暮らす夫とセックスしている人の気持ちに興味があります」という さんの発言を読みました。小生、「十数年一緒に暮らしている夫とセックスしている人」でございます。「してる人の気持ち」というほど自覚していることがなくてもいいのですが、つらつら話してみたいと思います。ちなみに三十代半ば、子どもふたりは別室で就寝。同室で眠っていたときも、よく寝る子たちでしたので特に問題なく、していました。
数年前には、やたらとセックスしたい時期がありました。その時期があったことにもあと付けではありませんがいくつかの理由はあるのでしよう。それはともかく、今、そういう燃え盛る発情期は脱して（いるのかな）、それでも定期的にしております。理由を無理やりつけるとすれば、ひとつに

十月号の
後のバースデイブルーがひどかったという投稿を読んで
川崎市
四十才は、一昔前までは、男性が自分の人生を振り返る時期だったと雑誌で読みました。

は、幸運なことに、いまだに夫が性的にも好ましいひとであること。ふたつには、嬉しいことに、夫にとってもわたしが性的に好ましい相手であること（自信はあまりない）。そして、わたしにとって婚外交渉は大変にリスキーであるとは思えないこと、の三点が大きいでしょう。ほかにも、子どもがよく寝る、とか、自分が普段からよく眠っている、で、「するより眠りたい」という精神状態にないこと、とか、夫も同様の仕事のプレッシャーでその気がナイなどという状態ではないこと、ともかくセックスが嫌いではない、むしろ好きであること、等々あるでしょう。なんだからいた理由ではないようにも、あるようにも思えますが、
逆に、夫とセックスする気がない方は、そもそもセックスをする気がないのでしょうか？十数年暮らした相手でなく、別の相手ならその気になるのでしょうか？（女性の立場で）何年も同じ相手に欲情するなんて信じられない、という意味のことを昔なにかで読んだ気がします。それもそうだと当時は思いました。でも、わたしは、夫とセックスするの楽しくて嬉しいな。

それが今や、女性のライフサイクルも男性化してきているから、昔は三十才くらいで、あれこれ感っていた女性も、感う時期が遅まっているとかなんとか。でも、自然のサイクルにはあまり逆らわないほうが良いだろうとも書いてありました。
さて、私は十二月で三十九才になります。（なりました）。もともと能天気な性格だからか、今のところ感うというより、四十才になるのは密かに楽しみだったりします。確かにこの一二年、お肌、体型、体力の衰えはひしひしと感じています。肌は弛み、お腹はぼっこり、駅の階段を駆けあがらうものなら息もたえだえ、とはほのほです。でも、能天気な上にもハッピーなもので、本当の大人の末席に仲間入りさせてもらえるようでワクワクするのです。結婚、出産、子育ての怒涛とカオスの三十代を何とか乗り切り、これからはやっつけるとハラが座ってきた。仕事の場でも十年前と比べて、人間関係が格段にやりやすくなったのを感じます。若いモンへの説教だって、いつの間にかできるようになっていたりして、そして、美貌（？）の衰えと引き替えに、手にできるものがあると思うの。それは貴様。その昔リオデジャネイロの海岸で、白髪のおばあさんが、たぶんたぶんのお腹にビキニを着て寝そべっているのを見ました。片手に煙草をくゆらして。二十代のビキニビキニだった私はいたく感動し、「かっちょえー！ 私もおばあさんになったら、ビキニで三浦海岸にねそべってやる！」と心に誓いました。かっちょえーおばあさん、おばあさんになって、私たちが、日本に大人の文化



あんふぁんてで誰かと出会うと、そこからまた新しい出会いに発展します。何が待っているか、わくわくします。あなたも、誰かと出会ってみませんか？

七月の「平日あんふぁんて」でお会いした板橋区の会員の、さんの紹介で、「語りの会」に行ってきました。毎月、第四金曜日の六時三十分から行われているそうです。
「おはなし夢夢」主催の尾松純子さんが手遊び、わらべ歌、詩や物語を語ります。部屋にはろうそくがともし、静かにその声に耳を傾けていると大人の私も話に引き込まれていきました。自分の子どもを育てている時も絵本は読んでいたけれど、こういう所に来なかったな！と思いました。

リレーコラム
へあんふぁんてって何？
わたしのあんふぁんて活用法 その2

さいたま市

「イベント参加報告」

2002年は「子育て支援」関連イベントが各地で開催された一年でした。そしてあんふぁんても、お産本完成後様々な「子育て支援」関連の催しに参加してきました。その一部を紹介いたします。

★「今どきの子育てを考える」

子育て広場 in エック (6・29)

埼玉県嵐山にある「国立女性教育会館」

主催の事業。「よりよい活動や運営を考えよう」など五つの分科会が開かれ、会員三名、

「子ども」が参加しました。「子ども体験コーナー」など子どもや家族向けの催しも行なわれ、全国各地から参加者がありました。

「参加してひとこと」

◆かつてあんふぁんてでは、子育て世代の活動にあまり協力的でなかった会館に対し学習や催しに参加する場合「保育を付けて」「子連れで泊まらせて」と何度も働きかけてきました。やっと就学前の子どもに限って宿泊が許可されましたが、その後も身軽な大人対象の事業が多かっただけに、保育が付き、子どもを対象とした催しまで行なわれたこのイベントは、隔世の感がありました。(川崎)

◆こんな立派な施設があるなんて、知りませんでした。あんふぁんてのような活動に参加していない人は、その存在すら知らないままなんて、もったいないと思います。(増永)

★「子育て支援環境づくりを」

考えるフォーラム (11・2)

乳幼児期の子育てしやすい環境とは――

特定非営利活動法人NPO事業サポートセンター主催で、会場は日本青年館。「事故予防」「遊びを豊かにする」の二つの分科会が開かれ、事故予防の分科会では、あんふぁんての預けあい保険について事例報告しました。

「参加してひとこと」

◆「子どもの事故は必ず起こる」という観点に立っての小児科医・山中龍宏さんのお話が、とても具体的で参考になりました。昼食時、厚生労働省の少子化対策室長さん他と話をする機会が持て、良かったです。(川崎)

★「子どもNPO・子育て支援」

メッセージ2002 (11・23)

子どもの育ちを支えよう

地域社会をめざして――

主催は特定非営利活動法人子ども劇場全国センター、会場はみなとNPOハウス。NPO事務所の長屋のようなになっている会場は、かつて学校だったところ。子どもNPO団体が校庭などに子どもの遊びコーナーを設けたこともあり、子連れや夫連れの参加者が目立ちました。

「参加してひとこと」

◆短時間でしたが、楽しかったです。小さい子どもがいたら大人同士で普通にしゃべることとかなかなか難しく(子どもが動く)話が中断されてしまったりして(行)ってリフレッシュできました。他のブースもおもしろかったです。(佐藤)

情報コーナー

★「才満の赤ちゃん連れOK」

DRAGON・MAMAのジャズライブ

旧会員・室田 さんのライブ。おっぱいを飲んでる赤ちゃんは人に預けにくいので、思い切って一緒にどうぞ。歩き出したお子さんは誰かに預けて、もちろん子育て一段落の皆さんも、おしゃべりな午後を過ごしませんか。お店はオーガニック食材を使用しており、飲食も楽しめます。

日時・2月8日(土) 正午～1時半

場所・カフェ・スロー(東京・国分寺駅から徒歩10分)

府中行きバスで京王ストア栄町下車・ストア隣り。

チケット・2000円(1ドリンク付き)

問合せ・室田

★ふじさき さんの手遊び歌CD

大阪の会員藤崎さんが、子連れコンサートで披露していた手遊び歌のCD「あなたのままで」を昨年発売しました。子ども達と一緒に歌ったゆつたりした曲が中心です。

CD1000円+冊子(歌詞・遊び方掲載)

300円+送料で、申込は藤崎さんのホームページ「ふじさき」から、又はFAX

へ。

なお、藤崎さんの音楽物語「世界中のひまわり姫」上演は、3月9日の東京(葛飾)で30回目とか。こちらの詳細も「ふじさき」を参照してください。

◆「子育て支援メッセージ」のお手伝いと言っても、メッセージの他のブースを見学したり、一才四ヶ月の息子を託児室に迎えに行ったりと、あんふぁんてのブースを離れていることが多かったのですが、個人的には、以前から興味を持っていた団体・学校の資料をもらったり、直接お話が聞えたり、とても興味深い催しでした。短時間ですが、託児室(無料!)も利用出来たし、他にも子どもが喜びそうな企画があって、日頃子連れで肩身が狭い身としては、嬉しい一日でした。又、自分から求めて行けば支援してくれる団体がこんなにあるんだと知ったことも収穫でした。ただ、六本木の地下鉄から地上に出るエレベーターがなく(いつものことですが)、長い階段をのぼるのは一苦労でした。来年はみなさんもぜひお出かけ下さいね！(榎)

★「地域の子育て支援フェア」(12・14)

地域の子育て支援フェア・ラ・カルト&活動紹介+情報コーナー

主催は「地域の子育て支援フェア実行委員会」、場所は立川市内の都立多摩社会教育会館。「子ども虐待防止センター」相談員や、育児雑誌前編集長、子育てアドバイザーなどがシンポジストを務めたほか、グループ情報コーナーもありました。宣伝不足か場所が不便なためか、参加者は少なめでした。

「参加してひとこと」

◆久しぶりに「あんふぁんてスタッフ」として小さい子どもを持つ人と接し、自分の昔の姿を思い出したし、あんふぁんてが身近に感じられました。(牛島)

★あんふぁんて三十周年を祝いませんか！

「三十周年」を祝う会企画メンバー募集！

あんふぁんては来年度創立三十周年を迎える。結成のきっかけは、子育てだけでなく「母親同士お互いに子どもの預け合いをし、預けているその時間を、自分らしく過ごす」という多かつた時期は終わり、最近では目減りするいつぱうだけれど、輝かしくも三十年も続いているのは(自分らしく生きたい)というニーズが、この二十一世紀の高度な社会でも悲しいかな叶えることが難しい普遍的なものとして今もあるからだと思う。連絡は夜間に

福野/FAX・

また、又は事務局へ。(杉並区)

★東京都児童会館「ふれあい子育て交流会」

親子で楽しめるプログラムがいっぱい！

1F「子育て支援活動展示会」には、あんふぁんてのブースが出ます。ぜひ来て下さい。

日時・2月14日(金)

・1階ホール11時～16時半

歌とピアノコンサート・パントマイム他

・4階13時～14時「ナージャ希望の村」上映

2月15日(土)

・1階ホール10時～16時半

太鼓演奏・パントマイム・手話ダンス・ピアノコンサート・子育てトークショー他

・4階11時～14時「海藻で絵を描こう」

(小学生以上50名・申込が必要)

申込・1月15日～2月13日 児童会館事業係

★子育てのための母親同士のコミュニケーション
 ションワークショップ&講演会(保育付き)
 「ママ友達の理想と現実」みんな仲良し
 でなくちゃいけないの?」
 子育てする中で、避けて通れないのが子
 もを挟んだ母親同士の関係。相手との距離の
 とり方に悩んだり、子ども同士のトラブルか
 ら関係が気まづくなったりと、つまづきを感じ
 ているのはあなただけではありません。ワ
 ークショップや講演会を通して自分なりの子
 育てを見つけてみませんか?

【講師】内田良子さん

(子ども相談室「モモの部屋」主宰他)

*同じ内容を2箇所で開催。午前のみ午後の
 みの参加も可。保育付(無料、要事前予約。
 終日か午前・午後からお知らせ下さい。)

【池袋版】(日時) 2月4日(火)

10時~12時 グループ・ワークショップ
 13時~15時 講演会

(場所) エポック10(池袋西口隣接メトロ
 ポリタンプラザ10階 駅歩2分)

(参加費) 1500円(資料代込み)

【武蔵野市版】(日時) 3月1日(土)(予定)
 詳細は1月末以降、担当者まで問合せを。

★あんふぁんて新年会(託児付・要予約)
 日時・2月1日(土) 6時~

会場・「kupuikupu」高田馬場歩5分
 (早稲田方向「ルノアール」角を左)

会費・3000円

託児・豊島区 の井上宅で。託児
 の詳細は直接問い合わせ下さい。

In

*参加申込は、井上宅か事務局へ。大人
 のみなら当日の飛び入り参加も大歓迎。

事務局から

●新年一回目の会報、今年もよろしく!
 ●名古屋あんふぁんての代表が村瀬
 さんに代わりました。

連絡方法は何でも可。手元のグループ・
 リストの訂正をお願いします。
 ●1月末の会員数は306名です。

《スケジュールメモ》

2月1日(土) 新年会 (高田馬場)

2月10日(月) ミーティング(事務局)

3月3日(月) 3月号発送(事務局)

*ミーティング・発送作業は10時半~
 3時程度。子連れ可・弁当持参です。
 参加希望者は事前に事務局まで連絡を。

●あんふぁんては、会費のみで運営し
 ている会。会費の支払いがまだの方は、
 至急振込をお願いします。会費が切れ
 ても本人から連絡がないと、退会や休
 会の措置が取れません。休・退会、転
 居等は事務局まで連絡ください。

あんふぁんてホームページアドレス <http://>

！《新事務局の地図》

☆当会について詳細を知りたい場合、封
 書に〒・住所・氏名・☎を明記し、切手
 四百円分(なるべく少額切手)を送って
 下さい。入会希望の場合はなるべく会費
 六ヶ月分(三千円)以上まとめて、郵便
 局の振替口座に払い込んで下さい。

第285号 (毎月1回5日発行)
 2003年2月5日発行
 (1975年7月26日初刊発行)

あんふぁんて 1・2月合併号

発行人 /
 発行所 / あんふぁんて出版部

電話
 (☎平日12時~2時それ以外FAX)

定価 / 500円

振替口座 /

加入者名 / あんふぁんての会

©本誌掲載記事の無断転載を禁じます。